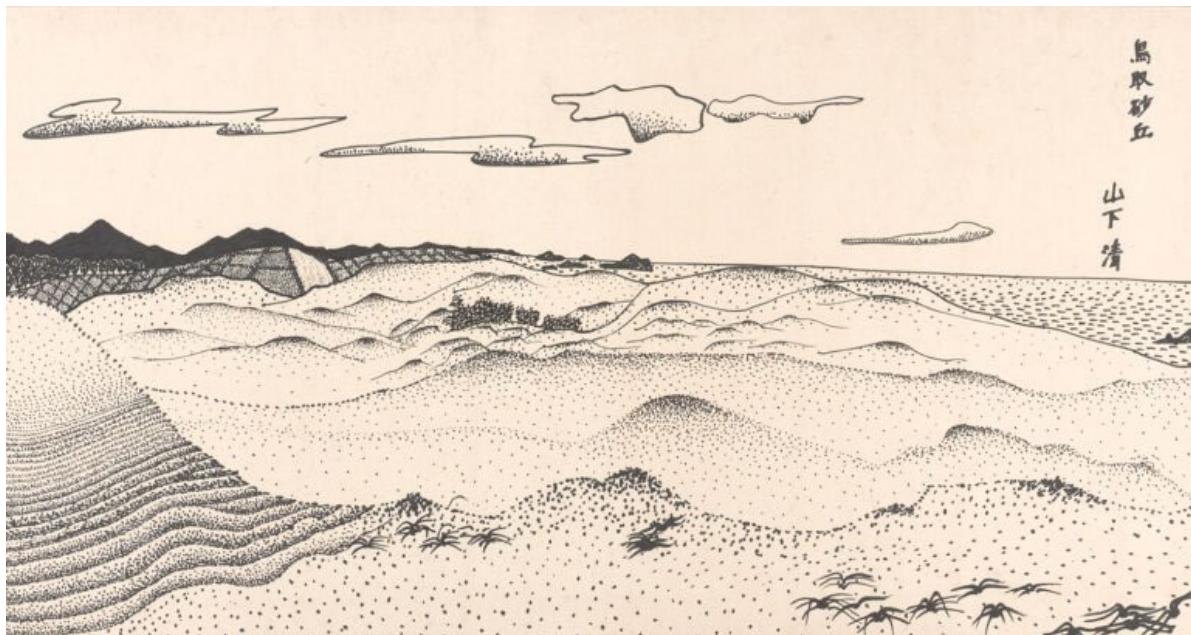


山下清 《鳥取砂丘》を収蔵後初公開

2026年1月24日よりコレクション展「特集：砂の光景」にて展示

鳥取県立美術館（鳥取県倉吉市、館長 尾崎信一郎）は、2026年1月24日（土）より、コレクション展「特集：砂の光景」にて、放浪の画家として知られる山下清のペン画作品《鳥取砂丘》を収蔵後初公開します。本展では、洋画と版画、写真を中心に鳥取県内外の作家が「砂のある風景」を題材に制作した作品を展示し、各作家たちが砂という存在とどのように向き合い、表現したかを紹介します。



山下清 《鳥取砂丘》 1956年 / 紙・インク / 鳥取県立美術館蔵 / 484×915 (mm)

山下清 《鳥取砂丘》の展示期間は、 2026年1月24日（土）～2月22日（日）まで

1956年8月20日、吉田璋也らとともに鳥取砂丘を訪れた山下清が、吉田らが持ち込んだ大判の因州和紙に壮大な砂丘のパノラマを砂丘にて描いた作品です。山下が描いた鳥取砂丘のペン画の中でもとりわけ大きく、かつ高い集中力で完成度高く緻密に描かれています。本作は描かれた直後、ちょうど鳥取市内で開催されていた山下清展に展示されて以降は行方不明でしたが、昨年、当館が幸運にも購入することができたもので、1956年以降久々の公開となります。



【作家紹介】

山下 清（1922～1971年）

東京・浅草に生まれる。12歳で入園した八幡学園でちぎり絵と出会い、これを発展させた「貼絵」という独自の手法でその画才を大きく開花させる。1940年以降、日本各地へ放浪の旅に出かけ、旅先で目にした風景を緻密な貼絵で制作、その完成度の高さから大きな注目を集めようになる。その後、油彩画や水彩画、マジックペンによるペン画、陶磁器の絵付けにも挑戦、1956年には鳥取県内を訪れ、鳥取砂丘や東郷湖などに取材した作品を残した。

【関連イベント】

ギャラリートーク

担当学芸員によるギャラリートークを開催します。

開催日時：2026年1月31日(土) 14:00～(30分程度) (※要コレクション展観覧料)

【展覧会詳細】

コレクション展『特集：砂の光景』

会場：コレクションギャラリー1, 2

会期：2026年1月24日(土)～4月5日(日)

休館日：1/26(月)、27(火)、28(水)、2/2(月)、9(月)、16(月)、24(火)、
3/2(月)、9(月)、16(月)、23(月)、30(月)

Web：<https://tottori-moa.jp/exhibition/view/exhibition-01-7/>

本件について、ご取材・ご紹介いただける場合は、下記担当までご連絡ください。

[問合せ]鳥取県立美術館パートナーズ 広報担当 (山本・三浦・興治)

Email | info@tottori-moa.jp TEL | 0858-24-5442 WEB | <https://tottori-moa.jp>